労働政策審議会職業安定分科会における
「2025 年度評価 評価シート」に対する意見の募集の結果について

令和８年４月 23 日
厚　生　労　働　省
職業安定局雇用政策課

厚生労働省において、労働政策審議会職業安定分科会における「2025 年度中間評価　評価シート」について、令和８年２月６日（金）から令和８年３月７日（土）まで御意見を募集しましたところ、６件の御意見をいただきました。

このうち、今回御意見を募集させていただいた「2025 年度中間評価　評価シート」に関する御意見２件について、当省の考え方をとりまとめましたので、公表いたします。

なお、本意見募集とは直接関係しない御意見も４件（企業への課税強化、福祉人材への予算拡充等）ございました。

皆様方の御協力に厚く御礼申し上げるとともに、今後とも厚生労働行政の推進に御協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

番号	御意見の概要	御意見に関する考え方
１	人手不足対策は人材確保だけでなく、処遇改善が必要であり、その点を政策評価にも反映させるべきである。 人手不足対策に係る多くの目標が未達となっている。それについて「ミスマッチ」や「求職者による条件重視」を強調して評価しているが、賃金水準や労働条件が十分でない求人が多いという構造的問題への言及が不十分。 また、就職後の雇用の安定性や生活の質が評価に十分に盛り込まれていない。就職しても生活が成り立たない雇用が増えれば、持続可能な労働参加にはつながらな	ハローワークにおける人手不足対応について、賃金水準・労働条件の改善を通じて選ばれる雇用を増やす視点を重視して政策評価を実施すべきとの御意見については、政策評価における目標設定としての難しさもあると考えておりますが、今後の行政運営での参考とさせていただきます。 なお、ハローワークにおける求人充足支援においては、求人条件の緩和指導や雇用管理改善援助など、就職後の雇用の安定も踏まえた人材確保支援に取り組んでおり、ご指摘の趣旨も踏まえた対応を心がけてまいります。

	い。 　人手不足対策を「人の確保」に偏らせず、賃金・労働条件の改善を通じて選ばれる雇用を増やす視点を重視して政策評価を実施すべき。	
2	ハローワークの就職率の低下は、民間求人サービスと比較して「媒体としての魅力不足」と「マッチング機能の劣後」が原因と考える。ハローワークが再び労働市場における需給調整の核心的役割を果たすためには、今後の対策として挙げられている積極的な事業所訪問や動画広告の展開等の従来型の延長線上の施策に留まらず、デジタル機能の強化、ＵＩ／ＵＸの刷新により、「選ばれるプラットフォーム」へと進化することが不可欠。	今後の行政運営での参考とさせていただきます。 　なお、ご指摘の趣旨も踏まえつつ、ハローワークにおけるデジタル機能の強化等にも努めてまいります。